

高校2年有志旅行 世界自然遺産・屋久島へ（2025.7.21～23）

今年の夏休み初日、高校2年生の希望者が集まり、2泊3日の有志旅行で世界自然遺産「屋久島」を訪れました。引率教員2名とともに、生徒たちは大自然の魅力を存分に体験しました。

屋久島の象徴である「縄文杉」へ向かうトレッキングでは、雄大な森の息吹を肌で感じました。また、映画『もののけ姫』の舞台モデルとなった「白谷雲水峡」では、苔むす緑に包まれた幻想的な景色に圧倒されました。リバーカヤックや海水浴といったアクティビティも行い、仲間とともに自然と遊び、心に残るひとときを過ごすことができました。

普段の学校生活では味わえない体験を通じて、自然の偉大さや仲間との絆を改めて実感する旅となりました。ここからは、生徒たちの体験記をご紹介します。

今回の夏休みには高校2年生の希望者を対象とした有志旅行があった。

今回の記事はその有志旅行での体験等を綴ったものである。今、高校1年生以下の読者はこの記事を参考にして是非とも有志旅行に参加してほしい。

1日目

1日目、生徒は屋久島行きのフェリー(トッピー)の乗り場である鹿児島港に集合した。私は集合時間の1時間程前に鹿児島港に到着したが、既に何人かの参加者が集まっていた。彼らと談話をしている内に参加者達が続々と集合していった。概ね問題はなく、私達はトッピーに乗って屋久島へと向かった。トッピー内では、睡眠をとる者、UNOをする者、しおりを読む者など様々であった。かくいう私は隣に座った友人とポケモンしりとり等をしたり、前日に購入した屋久島についての観光雑誌を読んだりして2時間強の移動を終えた。

屋久島に上陸して早速屋久島観光センターへと向かい、昼食をとった。昼食には、屋久島産の食材がふんだんに使われており、どれも非常に美味であった。

さて、いよいよ1日目のトレッキングが始まる。1日目は白谷雲水峡のトレッキングであった。白谷雲水峡にはジブリ映画「もののけ姫」の舞台の元となった場所がある。私達はそんな「もののけ姫」の聖地ともいべき場所である「苔むす森」を目的地として約2時間程歩いた。道中では、日本各地で植栽されているものの、屋久島では特に大きく育っているヒメシャラや、屋久島が植生地の北限とされている木々等の樹林の合間を縫って進んでいった。

足元に注意したり、道中で湧水を飲んだりと進んでいると1日目の目的地である「苔むす森」に到着した。なお、本来は苔むす森の先に「太鼓岩」という圧巻の展望を誇る場所があるのだが、時間の都合上「苔むす森」を目的地とした。苔むす森は前述したように「もののけ姫」の舞台となっているのだが、その肩書が似合う程美しく、またスピリチュアルな力に溢れていたように感じた。私達は集合写真を撮ったり、ガイドの方々が持ってきた「こだま」(もののけ姫に出てくる森の精霊的存在)の人形と木々の写真を撮っていたりという様子であった。

話は変わるが、下山し終わって、ガイドの方々にお礼を申し上げ、バスに乗って私達がお世話になる旅館「田代別館」の方へ向かっていた際に、道路上にヤクザルを見かけた。彼らは毛繕いをしており、その様子は非常に可愛らしかったが、改めて屋久島は自然が人間の身近にある、または人間が自然の身近にある場所だと思わされた。

田代別館に着くと、皆、動いて汗をかいていたので、順番に温泉に入った。温泉から上がって少し時間が経ち、夕食の時間になった。その日の夕食はお刺身、エビフライや炊き込みご飯、小鍋等非常に豪華なものであった。皆が席に着き、合掌をして、食べ始めた。想像した通り、非常に美味な夕食であった。夕食を皆食べ終わり、各々自分達の部屋に戻り、翌日の準備をして有志旅行1日目を終えた。

2日目

2日目。個人的にはここがこの有志旅行の大一番だと思っていた。(そして、今もそう思っている。)昨日22時まで消灯したのだが、この日は4時まで皆目を覚ましていた。縄文杉を見るには朝の5時頃出発する必要がある。まだ、寝ぼけ眼の人が多く、ロビーに集合した。各班長が点呼をとった後、弁当が配布さ

れ、バスの中で早めの朝食をとっていた。縄文杉入口「荒川登山口」までは約1時間である。バスの中からは夜明けが見えた。縄文杉へと向かう途中で、ガイドの方々と合流し、その数十分後縄文杉へと続く入口「荒川登山口」へと到着した。

さて、ここから往復10時間の道のりだ。荒川登山口から始まった、「ミチ」の初めはトロッコ道が続いた。前日の白谷雲水峡のように、左右に木々が映えている場所もあれば、一方が崖のようになってい場所、水が滝のように流れている場所、私が苦手な高い場所などトロッコ道だけでも風景が様々であった。

トロッコ道が終わり、いかにも登山といった道に入る。こちらは階段、苔の生えた岩、また階段と非常に足と緊張を使う険路であった。登山道に入ると、所々に湧水が出ており、自分の荷物の水分に自信がなく補充する者、折角だからと記念で汲む者等水を飲んだり、携帯していたお菓子等を食したりして適宜休憩をとって進んでいった。縄文杉までの道の間にも数々の生命を感じさせる樹木があった。例えば、「三代杉」だ。屋久島では、幾つか「二代杉」という切り倒されたり、自然に倒れてしまったりで朽ちていった「一代目」の上に新しい「二代目」が育ったものが存在するのだが、この「三代杉」はその中でも珍しい、「一代目」の上に育った「二代目」の上に「三代目」が育っている屋久杉である。朽ちた先代の養分を使って次代が育つという生命の循環を感じさせた。

道中で「ウィルソン株」のハートの写真や「大王杉」・「夫婦杉」等の前で班ごとの集合写真を撮ったりして目的地の「縄文杉」に到着した。着く直前に雨が降り始め、早速全体での集合写真を撮った。雨が強くなってきたため、小屋に移動し、雨宿りしながら昼食をとった。

さて、下山である。行きよりは楽だろう、と信じていた自分がいた。帰りは行きの疲れや、苔や水による滑り等で行きよりも数倍気を使った。行きとほとんど同じ道を辿って入口の荒川登山口に漸く着いた。足を初めとして、体中が疲労困憊だ。早く宿に戻って温泉に入りたい。その祈りが通じたのか宿に戻ったらすぐにお風呂に入れた。汗や体の汚れと一緒に疲労も流れていくような心地であった。

お風呂から上がり、アイスを食べ、リラックスしていると、夕食の時間となった。前日に引き続き、豪華なものであった。前日と同様の刺身盛り合わせ、小鍋、炊き込みご飯、そしてメンチカツやキビナゴの刺身等これまた非常に美味であった。この旅を通した一番の思い出と言っていюくらい夕食は非常に美味しかったと感じる。是非田代別館に行って食べてもらいたい。

夕食を食べ終えたら、レクリエーション大会である。実行委員会の2人による人狼ゲームや有志の生徒2人の歌唱が行われ、最後に私が主催したビンゴ大会が行われた。このビンゴは白熱し、最後の1人にトリプルリーチを越えた4つのリーチが発生し、ある意味強運だと皆興奮していた。ビンゴ大会が終わると、先生が全員で班長会議をするとおっしゃったので、何を話されるのかと緊張していたが、怪談を話された。皆、反応が大きく、先生方も満足げだった。その後、部屋に戻り、友達とUNOをして、その日は終わった。

3日目

いよいよ有志旅行最終日。1日目・2日目と打って変わって川や海へ行く。世間一般にとって1日目の7月21日が「海の日」であったようだが、私達にとっては7月23日が2日遅れの「海の日」であった。前日とは違い、この日は早起きする必要はなかったのだが、5時頃に目が覚めてしまった私は6時まで部屋で出発のための準備の後片付け等をして時間を潰し、6時になったら温泉へと向かった。温泉は前日の夜と違い、殆ど人が居らず、私と同じく早起きしたラ・サール生二人と湯舟につかっていたのだが、先生が入って来られた。それに加え、浴室の窓から虹が見えていた。

7時になり、同じ部屋の友人達も続々と目を覚ましていた。朝食の時間になり、実は3日間の旅行で初めての旅館での朝食を楽しんだ。内容としては、焼き鮭・納豆・味噌汁に始まり、水餃子・温泉玉子等朝食とは思えないぐらい量が多かった。そのような豪華な朝食を食べ終え、全員がロビーに集合した後、3日間お世話になった田代別館にお礼を一同で申し上げて、出発した。

この日の目的地の1つ目は安房川であった。リバーカヤックというアクティビティをするためである。目的地に着いた私達はライフジャケットを着て、オールを持ち、ボートに乗って、安房川に向かって漕ぎだした。カヤックは想像より難しく、行きは全然進まず、腕に疲労が溜まっていく一方であった。私達は写真を撮るために1度陸に上がったのだが、再びボートに乗る時に転覆したことが記憶に残っている。帰りは行き

と違って安定して進んでいたが、やはり腕は痛くなってしまった。

バスに戻り、次の目的地へと向かう道中、昼食の弁当をバスの中で食べた。1日目昼食をとった屋久島観光センターの弁当で、漬物が美味しかった。弁当を食べていると2つ目の目的地である「一湊海水浴場」に着いた。最後の有志旅行での活動であること、そして、何より楽しみにしていた海であったことから、皆、活発に泳いでいた。中には水鉄砲を使って遊んでいたり、砂で城を作っていたりしている者もいた。

2時間程海を堪能した私達はいよいよ土産を買うために、1日目でも寄った屋久島観光センターへと向かった。初日はあまり時間が無く、ゆっくりと土産を見ることが出来なかったため、改めて土産店内を見て回ると、屋久島といえばの屋久杉を使用した商品を始めとして、たんかん・ポンカンを使用したジャムや、屋久島限定のお菓子、そして私達は買うことが出来ないが同じく屋久島で有名な焼酎関連の食品等多種多様であった。その中でも参加者達に人気だったのはこれ、というような偏りは見られず、家族に屋久杉を買っていく者、自分へのご褒美としてちょっと高級なお菓子を買う者、趣味で出汁や調味料を買う者など十人十色で、これも有志旅行の醍醐味だと感じた。

土産も購入し、遂に鹿児島本土に戻る船に乗る港、宮之浦港だ。大変だったが楽しかった有志旅行の終わりを感ぜさせた。今から1日目と同じように約2時間船に乗って鹿児島港へと向かう。最後の集合時間まで各自お手洗いにいたり、港内の土産店を見たりと時間を使い、集合時刻となった。配られたチケットの席へと向かう、そして、3日間思い出を作った屋久島へと別れを告げる。船へと乗り込み、数分経って港を離れた。

行きと違って、多くの者は目を閉じていた。きっと3日間の疲れからだだろう。そんな私も、乗り物に乗ってはいいつも眠れないのだが、眠りかけていた。そして、鹿児島港へと到着。皆で集合写真を撮ったり、私達が楽しめるようにプランを考えてくださった先生方と添乗員の方と一緒に礼を申し上げたりして解散となった。そして、各々帰路についた。

3日間非常に良い旅行であった。ここで改めて、引率をしてくださった先生方や、添乗員の方にお礼を申し上げる。本当に思い出となる旅行をありがとうございました。そして、有志旅行をより楽しいものにする為に奮闘した実行委員の方々にも感謝を述べたい。

これで有志旅行の語りを終える。しかし、前述したように、これを読んでくれた高校1年生以下の方々には、是非とも有志旅行、更に言えば屋久島への旅行の参加を勧めたい。確かに大変なことも沢山あるが、その分乗り越えた先にはかけがえのない思い出が残ると感じている。来年以降の有志旅行も皆さんにとって素晴らしいものになることを心から祈っている。



左 田代別館の夕食 右 みんなでゲーム

次ページ上左から 白谷雲水峡にて/トロッコ道を歩き縄文杉へ/縄文杉前で記念撮影/ 下 一湊海水浴場にて

